

## 4 資源循環の推進

### 1 プラごみゼロに向けた取組の推進

#### 【提案内容】

提出先 農林水産省、経済産業省、環境省

不必要に使用・廃棄されるプラスチック製容器包装・製品を削減するため、レジ袋の有料化義務化（無料配布禁止等）に向けて、関係機関等との調整を行い、全国一律に適用する制度を創設すること。

また、街中で投棄されたプラスチックごみ等が、河川を通じて海に流れ、海洋汚染の原因となっていることを踏まえ、国が率先して、海洋プラスチック問題を国民に周知し、ポイ捨て・不法投棄撲滅を推進すること。

#### ◆現状・課題

プラスチックごみによる海洋汚染が世界的な問題となっている中、SDGs先進県である本県では、2018年9月に「かながわプラごみゼロ宣言」を発表し、2030年までのできるだけ早期に、リサイクルされない、廃棄されるプラごみゼロを目指すこととした。

県では、2009年度から、企業や団体等と協働して、レジ袋削減に向けた取組を進めてきたほか、この宣言に基づき、企業や団体等と連携し、プラスチック製ストローやレジ袋の利用廃止等の取組を推進している。

さらに、県内各地で「かながわクリーン運動」を展開し、県民、企業、市町村等と一体となって、海岸、河川等のクリーンキャンペーンを行うとともに、2017年度からは相模湾等の県沿岸に漂着するマイクロプラスチックの実態調査を行っているが、市町村や県単独あるいは企業・団体による自主的な取組のみでは、その効果に限りがあり、問題解決が困難である。

国においても、「プラスチック資源循環戦略（案）」の中で、レジ袋の有料化義務化やポイ捨て・不法投棄撲滅に向けた措置の強化などに言及しており、海洋プラスチックごみは、地球規模の環境汚染につながることから、循環型社会の実現に向けて、国が率先して、全国一律に適用する制度の創設やポイ捨て・不法投棄撲滅の取組など、必要な措置を講じる必要がある。

#### ◆実現による効果

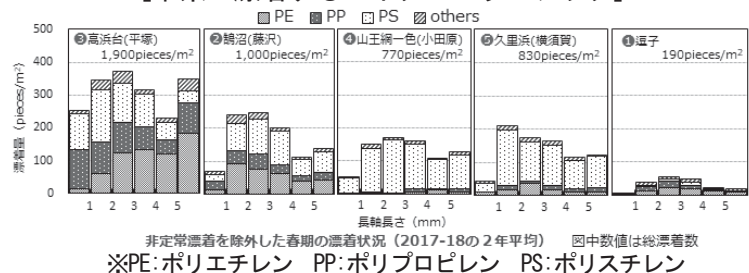
プラスチックごみ等の発生抑制により、天然資源の消費が抑制され、環境への負荷が可能な限り低減される循環型社会の実現に寄与する。また、海洋プラスチックごみの減少により、海の豊かさを守ることに寄与する。

(神奈川県担当課：環境農政局資源循環推進課)

[藤沢市 片瀬海岸  
(公財) かながわ海岸美化財団]



[本県に漂着するマイクロプラスチック]



各海岸で漂着物の多い箇所を2点選び、そこに40cm四方の採取区画を設定し、採取したマイクロプラスチックの数（縦軸）と個々の長さ（横軸）を棒グラフにしたもの。

## 2 漁業の操業により回収される海洋ごみの適正処理の推進

### 【提案内容】

提出先 環境省

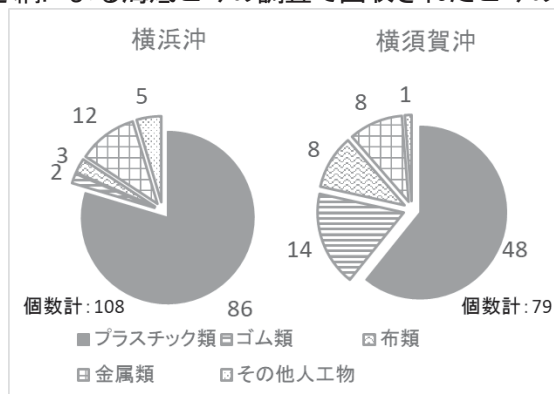
漁業の操業を通じて回収されるプラスチックごみ等の海洋ごみを、漁業者が費用負担することなく適正に処分するための新たな支援措置を講ずること。

#### ◆現状・課題

漁業現場では、底びき網や刺網などにより、多くのプラスチックごみ等が回収されており、港湾管理者等が処分している例もあるが、その処分費については、回収した漁業者や地元自治体等が負担する必要があることから、積極的な回収・処分に至っていない。

2018年6月に改正された海岸漂着物処理推進法では、地域住民の生活又は経済活動に支障を及ぼす漂流ごみ・海底ごみの円滑な処理の推進が盛り込まれており、漁業現場からの主体的な取組を推進するための環境整備が必要である。

〔底びき網による海底ごみの調査で回収されたごみの組成（個数割合）〕



環境省「沿岸域における漂流・海底ごみ実態把握調査業務報告書（2016.3）」を基に作成

#### ◆実現による効果

海洋ごみの影響を最も受ける漁業者自らが回収に取り組むことで、漁場環境の整備を図るとともに、海洋汚染の防止や海の豊かさを守ることに寄与する。

(神奈川県担当課：環境農政局水産課)

〔底びき網に入ったレジ袋等のプラごみ〕



〔神奈川県環境科学センターの調査で見つかったマイクロプラスチック〕



実態調査により採取されたマイクロプラスチックを、材質ごとに選別したもの。